

生誕一〇〇年

古谷蒼韻展



2024 6/18(火) ▶ 6/23(日) 10:00~18:00 (最終日は16:00終了)

【会場】 京都文化博物館 5階 京都市中京区高倉三条
TEL.075-222-0888

【主催】 生誕百年古谷蒼韻展実行委員会

【特別協力】 成田山書道美術館

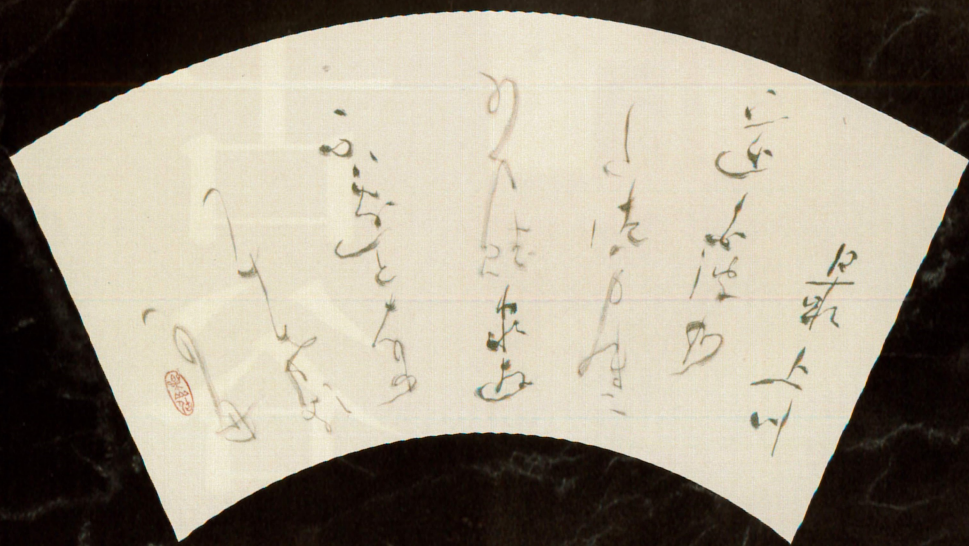
【後援】 京都府・京都市・京都文化博物館・(公・社)全日本書道連盟・
(公・社)日本書芸院・京都書作家協会・現創会・読売新聞社・京都新聞

ご芳志等お心遣いはご辞退申し上げます

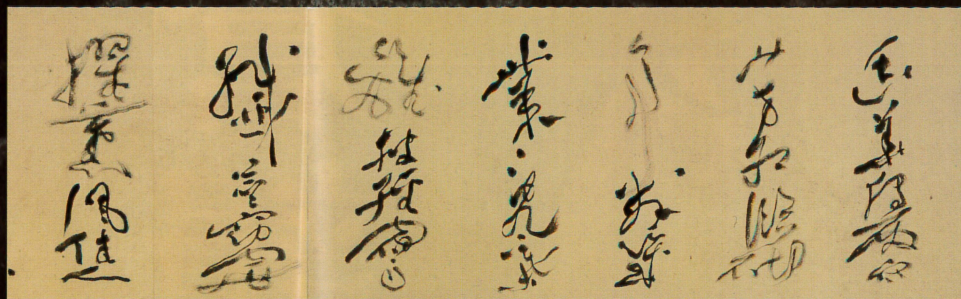
入場料
無料



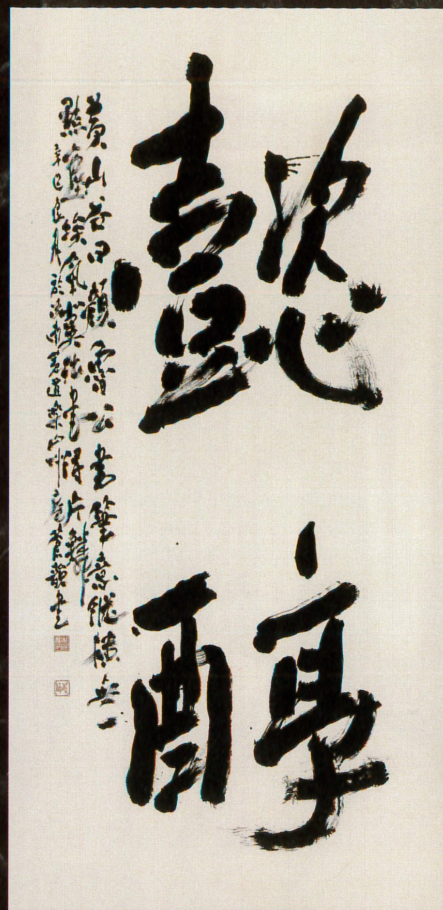
私たちは「日本の書道文化」の
ユネスコ無形文化遺産登録を
応援しています。



斎藤茂吉「逆白波」(白き山)



高青瑠「萱草」(一部)



鮎原(葵邑)

「生誕百年 古谷蒼韻展」を開催いたします。昭和、平成を通して活躍した古谷蒼韻(1924～2018)は、少年期から書に傾倒し、師範学校時代に中野越南と出会い以後の書家としての方向を定めます。続いて辻本史邑、村上三島に師事して全国展をめざすようになります。昭和二十年代後半に木簡風の作品によって注目されると、寂厳の朴訥さ、懷素の狂草風の展開などを取り入れ、新機軸を次々と打ち出しその名が知られるようになります。壮年期以降は、藤原佐理、本阿弥光悦、良寛など日本の名跡にもしたしみ、万葉歌などを題材に「和漢の境をまぎらかす」新境地を拓きます。

制作の基本には独自の視点で古典をよみとく姿勢があり、多彩な表現は戦後の漢字書に大きな影響を与えました。今回展では、各時代の代表作を中心にその足跡をたどるとともに、日常の学書姿勢、背景にある思索も視野に入れて展観を構成いたします。何とぞご高覧いただきますようお願いいたします。



雲を詠む二首 山を詠む二首(萬葉歌・柿本人麿)(一部)